

いつもお世話になりありがとうございます。「お昼の顔」として一世を風靡した『笑っていいとも!』が3月いっぱい、32年の歴史に幕を下ろします。司会のタモリさんは他にも長寿番組を持っていますが、秘訣は「番組に関する反省を一切しないこと」だとか。好きな言葉は「適当」と言い切るタモリ流の仕事術、なかなか奥が深いです。

知っとこ!「税務のマメ知識」

【「NISA」ってなに?】

NISA（ニーサ）とは、2014年1月から導入された「少額投資非課税制度」のことで、上場株式や公募株式投資信託などの配当や譲渡益の一定額を非課税にするという制度です。具体的には、毎年100万円までの新規購入分を対象に、その配当や譲渡益が最長5年間非課税になります。この制度が利用できるのは20歳以上の日本国内居住者で、1人につき1口座しか開設することができません。例えばA銀行に口座を開設した場合は、異なる金融機関であってもB証券には開設できません。口座開設可能期間は2014年から2023年までの10年間になります。なお、現在のところ一度、口座を開設すると最長4年間は別の金融機関への変更や開設をすることはできません。金融機関によって扱う金融商品や手数料が違うため、口座を開設する金融機関を決める際には十分に検討したいですね。また、上場株式などを

売却して発生した譲渡損失については、他の特定口座や一般口座での譲渡益と損益通算することや繰越控除することはできません。なお、今回の内容は2014年1月現在のものとなります。NISAは「専用口座を開設する金融機関を毎年変更」「口座を開く手続きの簡素化」など、使いやすくするための検討が現在も関係省庁で進められているので、今後も詳細が変更されていく可能性があります。



副所長

たなべしげお

田邊繁雄の「税務の豆知識」



ご存じですか?個人の方が金地金等を売却した場合の所得税

～金地金等の売却取引は法律で税務署に報告されています。

金価格は、2005年までは高くても2,000円/gまでで取引されていましたが、とある貴金属小売業者では、昨年2013年に5,000円を超える小売価格を値付けしていました。投機目的で比較的短いスパンで売買を繰り返している方は、損益をきちんと計算して所得税の確定申告をすることに慣れていることと思います。ところが、過去に相続した金地金等(=ほとんどの場合に利益が発生します。)を始めて売却した個人の方など、取引が少ない方は、所得税の確定申告をすっかり忘れてしまいがちではないでしょうか?金地金等を売却した場合、1回の取引が200万円を超えると、買取業者は税務署に取引内容を記載した「金地金等の譲渡の対価の支払調書」を提出することになります。つまり、誰がいくらで売ったかは税務署は把握していることになりますから、1年間の取引で利益が発生した場合は確定申告をお忘れなく!ちなみに、年間利益が50万円を超える場合には、売却した金地金等の所有期間に応じて所得金額を計算し、他の所得と合計して所得金額を算出の上、確定申告をすることになりますが、所得控除(医療費控除等)の内容によっては納める税金が発生しないこともあります。

社員のひとこと日記



寒い寒い冬も終わり、いよいよ春本番です。
カレンダーを見ても「春分の日」の文字が飛び込んできます。
さて、「春分の日」って日付が前後するって知ってました？
国立天文台が作成する『暦象年表』という小冊子に基づいて閣議決定され、
前年の2月第1平日付の官報で発表されるようです。2年後以降の天文学における
春分日は計算によって求められます。なお、天文計算上1990年～2025年までは
閏年と翌年が3月20日になり、その他の年は3月21日になるそうです。

(ちなみに今年は3月21日で3連休…ラッキー)

オリンピックのある年と翌年は3月20日という事ですね。

確定申告も無事に終わり、ホッと一息つきたいところですが、すぐに5月の繁忙期も
見えてきてます。(トホホ…) (>_<)

しっかり切り替えて臨んでいきます(^_^)v

高松

365日が楽しくてたまらない!「商売のヒント」

今月の商売のヒント:【我、人と逢うなり】

誰に出逢うかで人生は大きく変わると言われますが、果たしてそうでしょうか。曹洞宗の開祖である道元禅師が中国に渡り念願の師に出逢ったとき、その喜びを「まのあたり先師(せんし)をみる。これ人にあふなり」という感動の言葉で表しました。求め続けた師に逢うためにはるばる海を越え、ついに願いが叶ったとき道元禅師は思ったのです。自分一人で考えて行動したのでは分からないことがある。人との出逢い、それがすべての始まりであると。これを禅語で「我逢人(がほうじん)」と言います。「我、人と逢うなり」という意味ですが、「誰」と出逢うかではなく、出逢いそのものの尊さを三文字で表したものです。



人はみんな違った考え方をもち、それぞれの人生を生きています。自分と似ている人はいても同じ人は一人もいません。ですから人は出逢いによって自分とは違う価値観に気付いたり、自分の中で答え合わせをしたりして少しずつ成長していけるのでしょう。

人との出逢いは未知なる自分との出逢いでもあります。人に出逢わなければ自分の世界はいつまでも広がら



ず、深みも増すことなく目の前の景色は変わっていきません。人がうらやむような出逢いでも、傍からはちっぽけに見える出逢いでも、「人が人に出逢う」ことにおいてはすべて同じ「出逢い」でしょう。確かに「誰」に出逢うかで人生は変わりますが、そもそも人と人との「出逢い」そのものがありがたいとなれば、良い出逢い・悪い出逢いの区別はありません。そのときは後味の悪い出逢いだったとしても、あとから振り返ったときに「あの出逢いがあったからこそ今の自分がある」と省みることができたなら、それこそ成長の証でしょう。商売はご縁のたまものです。人との出逢いを大切に、「良い・悪い」で判断せずに出逢いそのものを楽しみたいものです。出逢いを大切にしていれば出逢いが出逢いを呼びます。つまりそれは人を大切にすることだろうと思います。